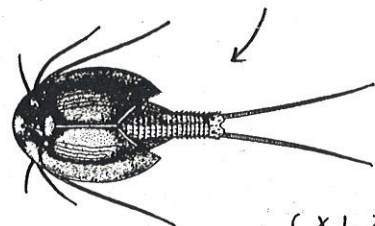


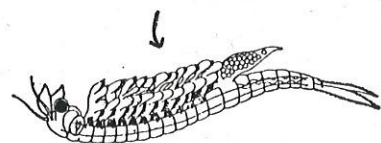
すっかんぽ

6月号

特集、カブトエビとホウネンエビ



(x1.2倍)



(x4~5倍)

毎年、この時期になると、佐野地区で田植えが始まる。このあたりは、二毛作をやっているの、田植えは、かなり遅い方だと思う。ちなみに大田原(県北)では、5月の連休に家族総出でやる、というのが、一般的な農家の姿だ。

ところで、みなさんは、上の図のような生き物をみたことがありますか？ これらは、名前こそ「エビ」とついています。が、エビではありません。むしろ、ミジンコに近い仲間だ。ホウネンエビの方は、昔、雑誌の付録でついてきた、シーモンキーと同じ仲間だ。(シーモンキーは現在、TUKUDAというおもちゃメーカーで1セット1000円で売っている。)

このエビを始めてみたのは、佐高に来てからだ。栃木県では、県南の一部にしか、分布していない。また、どの田んぼにもいるというわけでもない。ホウネンエビは、年によて大発生することが知られており、そういう年は、豊年になる、という言い伝えがある。その名がきている。韓国や中国にも分布しているらしい。上の図のように、背と下に腹を上にして巧みに遊泳する。成長すると、体は緑色を帯び、肢などは、朱紅色(あざやかなピンク)の、色彩を交える。ほんとにすばらしいものもある。

カブトエビは、ホウネンエビに比べると、かなり大きくなる。

大きなものでは、4, 5cmに達する。瀬戸内海にすんでいるカブトガニ(天然記念物)と名前や姿が似ているが、全然、別物だ。

しかし、カブトガニもカニではなく、クモに近い仲間だ。あるいは、大昔に絶滅した三葉虫(サレヨウチユウ)にも近い。(生物室に標本があるの、いつでもみられるゾ)

カブトガニもカブトエビも、^{こう}甲がカブトのようになっている。

★ カブトエビとホウネンエビの一生！

彼らの寿命は、約2週間！ そのあとに成長し、卵を産んで死んでしまう。つまり、田んぼに水をひいてから、発生し、農薬(除草剤)をまくころには、卵をもっている。そして親が死んでも卵は土の中に残り、次の年の田んぼのころ、再び発生するのである。だから、もともとすみついている田んぼには、毎年、発生し、そうでない田んぼでは、発生しない。

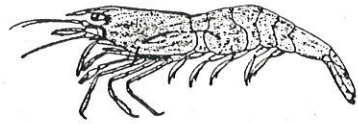
この前、テレビで北アメリカにすんでいるカブトエビの話をやっていたが、たまにふる大雨で田んぼの水たまりで卵が発生し、それが、干あがるまでに一世代がかわっていた。時間との戦い、なかなかしなない。

★ このへんにすんでいる、ほんとうのエビは？

私は、大学時代、エビのホルモンの研究をやっていた。エビのホルモンは主に、目の付け根、でつくられているのだが、それを調べするために、来週、エビとりをしていた。その時、材料にしていたエビは、ヌマエビとテナガエビとスジエビの3種類だ。かなり大変につかつた。エビさがしには、苦労した。自転車の荷台に酸素ボンベをつんで、エビの入った袋にO₂を入れて、はこんで来た。往復2時間のエビとりは、けっこうきつかった。佐野に来て、ヌマエビをみつけた時は、なにかしい気がした。しかし、千葉には、どこにもいない。テナガエビは佐野ではみつけるところはできなかった。

当時、ホウネンエビという名前だけは知っていたが、実物はみたことがなかった。というエビだと思っていた。そして、佐野で初めてみたとき、びっくりした。逆さに泳いでいる。まるでエビらしくない。ずっと、みたいたかと思っていたものが、栃木県の辺境の地、佐野でみつけて感激した。これは、君たちにとっては、ありふれた生き物かもしれないが、実際にみたことのあつた人は、全国的には、ごくPRされていると思う。

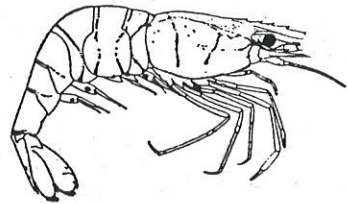
★ 佐野に いるエビ



① ヌマエビ — 体長約 30 数 mm

体色は 緑褐色 ~ 青緑色

川の流水がゆるくて、もかしげえ
いるような場所や、沼にすんで
いる。夜、光をあてると目が
光を反射して、ギンギンに輝く。
泳ぐ姿かたは、優雅なもの。
かてみるのも おもしろい!



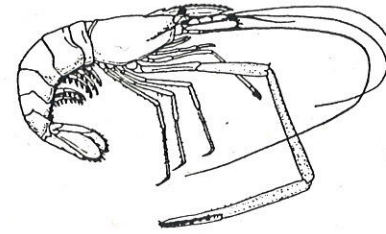
② スジエビ — 体長 55 mm に達する。

体色は 透明で 黒い模様
がある。

このエビは、ヌマエビほど じん
くさくなく、あかぬけしている。
佐野では、実物はみてないが
いるという話は多く。

一度、那須の 小エビ川でみたこ
があるが、そのときは 歩いて、石の上
を 垂直にのぼっていた。同じ
生物学者の友人もいて、これは 水すずい
から 写真にとり、雑誌に送った
と聞いていた。

このエビは、きれいな川で、酸素に
強く、長く かわのほ ぶかい。
死にかけてくると、しっぽの部分が
白くなる。つぎ、生きながら 体のはしから
細胞が死んでいって しょうがた。
だから、その 豊かな、水しぶきがたっているような
きれいな川(溪流)にしかいない。



③ テナガエビ

体長は 90 mm に達する

ハサミの長さも 加えると 150 mm
以上になるものもある。

このエビは、佐野には いるかも知れない。

しかし、みることはできる。君たちが 将来、お酒を
のみにあつた時、のみ屋で、川エビの 唐あげを
くださいと たのみに、でくると、このエビである。
このエビは、千葉県の 八幡沼とか、利根川
で たくさんとれる。それをとる 漁師さんいる。

このエビは、他の 2 種と比べると、気性が 荒く、
けんか、はやり。はすみをつかて、すぐけんかを
はじめてしまう。

このエビに、何度も
ヌマエビや スジエビを くわえて、実験に 困ってし
また、ことがあつた。また、小さいくせに、しっぽの力
がつよく、ジャンプして、水より高く できてしまう。
次の日、みほしにち、発見される。まねけなヤツ
でもある。

今は、生きている テナガエビを みる機会はないが、
今度、千葉にいた時、つかまえて、みんなに
みせてやりたいと 思っている。しかし、こいつを 耐久
に強く、かつ、けんか、はやりので、生きたまま まで
帰るのは、超 ぶかい。

★ 貴君に、生物の先生から、君たちへの おねがい。
何か、水すずい、生き物を見つけたら、
もてくるか、教えてください。
ちなみに、今、生きたテナガエビの 卵を つかっています。